

令和7年度第1回鎌倉市環境審議会会議録

- 1 開催日時 令和7年（2025年）7月14日（月）午後4時から午後5時55分まで
- 2 開催場所 鎌倉商工会議所 1階102会議室（委員は現地またはオンライン参加）
- 3 出席者 現地参加：亀山会長、川口委員、植木委員、小團扇委員、前田委員、奈須委員、小田委員、渡邊委員
オンライン参加：吉田委員
- 4 事務局 加藤環境部長、山本環境部次長兼環境政策課担当課長、竹之内環境政策課担当課長、浦山係長、石川職員、大堀職員
- 5 議題 （1）鎌倉市環境基本計画等の改定・見直しについて
- 6 報告事項 （1）その他
- 7 事前送付資料等
資料1 新たな環境基本計画の策定について
資料2 市民等意識調査について
資料3 各種アンケート調査票（案）
資料4 計画策定に向けたスケジュールについて

8 会議内容

会議の進め方について事務局から説明を行い、会議及び会議録について公開すること、議題1の受託事業者である創建㈱担当者のオブザーバー参加についての説明、傍聴者4名入場、配付資料の確認後に議事に入りました。

亀山会長 議題（1）について説明をお願いします。

浦山係長 「資料1 新たな環境基本計画の策定について」P1～6 説明

亀山会長 ただ今の説明についてご質問、ご意見があればお願いします。

渡邊委員 資料1、6ページの一般廃棄物焼却量の目標が未達成な理由について、分析された結果があれば教えてください。また、ごみ処理について現在逗子の既存焼却施設で処理をしていて、それ以外は民間で処理しているとのことでしたが、鎌倉市で焼却施設をつくらないというのはもう市単独で燃やすほどのごみの量が出ないという理由ですか。

浦山係長 焼却量の未達成については、生ごみと紙おむつの資源化を前提に目標値に入れていたところ、まだそれらの資源化が出来ていないためです。

加藤部長 焼却施設については、平成31年度にごみ処理基本計画を定め、その中で今後30年間ごみ処理施設を建設して自主管理する場合と、二市一町で広域連携をしているのですが、市内に焼却施設を建設せずに広域連携の中でごみ処理を行うことを検討したところ、処理施設を設けず広域で処理したほうが経済的であるという判断がありまして、その時にごみ処理施設は建

設しないことにしました。

小田委員 この計画がこの先十年の計画ということを考えた時に、本市だけではなく他の自治体や県、国などとの関係性の中から決まる部分もあると思いますが、基本計画をつくるにあたって、他の組織の予定等を考慮したものがあればお聞かせ下さい。

竹之内課長 これからどのような方向性で新しい環境基本計画を策定していくかの前提として、国や県で直近に環境基本計画の見直しや脱炭素の計画の見直しがありましたので、大きな方向性としては揃えていくものだと思います。周辺の自治体については、広域で連携して施策を行っている部分と、そうでない部分もあるので、どう連携していくかについては、これから計画策定を進めていく中で検討していきます。

川口委員 市の総合計画基本構想や基本計画が切り替わるタイミングだと思いますが、計画期間が10年というのは最近短くなりがちな計画にしては長いと思います。ある程度市の総合計画とタイミング合わせる形で設定されているのですか。

浦山係長 今後、市域における令和12年度（2030年度）の二酸化炭素排出量を平成25年度（2013年度）に比べ46%削減するといった脱炭素の目標設定の時期が計画期間内で随時ありますので、適宜中間見直しを行いながら、また他計画との整合を取っていきたいと考えております。

川口委員 市の施設において再生可能エネルギー100%電力への切り替えをどんどん進めていて、二酸化炭素排出量の削減目標を順調に達成されていますが、計画期間の10年の間にいろいろ社会状況とか変わってくる可能性もあると思います。

以前、市の中大規模な施設を再エネ電力に切り替えており、中小規模の施設はまだ切り替えてられていないということがあったかと思います。社会情勢が読みづらい部分もある中で、これらのスケジュールも含めて新たな計画に反映されていくということですか。

浦山係長 高圧受電施設については再エネ化を完了しており、これら施設が市の電力使用量の約9割を占めています。残りについては、例えば道路の街路灯といった低圧受電施設はまだ再エネ電力に切り替えを行えていないところですので、引き続き、課題感をもって、切り替えを進めていきたいと考えております。

川口委員 ペロブスカイト型の太陽電池のような新しい技術が登場していますが、技術の進捗を見ながら目標を達成していくという考えが確かあったと思うのですが、そういうことは計画には書き込まないのですか。

浦山係長 今後、ご審議いただきながら検討を進めていければと考えています。

亀山会長 1ページから6ページは現状と、現行の基本計画の総括の説明でした。新しい環境

基本計画の改定のポイントというのをご説明いただいた後の方が、おそらく今のご質問等にマッチする議論ができると思いますので、引き続き資料1の7、8ページについてご説明をお願いします。

浦山係長 「資料1 新たな環境基本計画の策定について」P7～8 説明

植木委員 「鎌倉ならでは」という言葉が出てくるのですが、何をもって鎌倉ならではということを示しているのですか。イメージではなく、はっきりしていただきたいなという思いがあります。8ページ第二章の鎌倉の今の姿。これはまさに今、なのでわかりやすいのですが、昔と今とでは全然違って良くなった部分もあれば悪くなった部分もあるので、一体どこの時点での鎌倉らしさなのかというのは、おそらく長年住んでらっしゃる方は疑問に思います。もう少し具体的な表現があったほうが良いと感じています。

また、このオール鎌倉という部分についてですが、日中はおそらく一定数の方は働きに出て行かれていて市内にいらっしゃらないですが、観光客の方は日中たくさん来ているので、鎌倉にいる人の属性が時間や曜日によって変わると思うのです。そのため、オール鎌倉として考えるにあたっては、観光客の方も含めたほうが良いと考えますがいかがでしょうか。

浦山係長 「鎌倉らしさ・鎌倉ならでは」につきましては、これまで市民の方からは例えば豊かな自然といったお話をいただいているところですが、今後市民意識調査のアンケート等を実施させていただくことをつうじて、鎌倉らしさなどの確認をさせていただきながら、ビジョンに落とし込みをしていきたいと考えております。

観光客の方につきましても、現計画でも市民や事業者に加えて滞在者の行動を含めて計画に位置づけているところですが、新たな計画でも観光客を対象にアンケートを実施し、意識調査を行いながら引き続き計画対象に含めていきたいと考えております。

渡邊委員 「ウェルビーイング」は非常によく使われるのですが、定義があいまいで場所によっても異なるので、それをできるだけ具体的に計画に落とし込んでいただくのが良いのではないかと思います。一つ一つの用語について具体的なイメージを出していただけると良いと思います。

また、先ほど質問した6ページのごみ・資源の目標の件について、これは事業者を含んでいるか確認させていただきたい。

加えて、市の施設に再エネを導入しているとのことですが、市内の大規模施設について指導や可能であれば義務付けを行った方がよいと思います。海沿いなどの太陽光の発電量が取れそうところや、大きな病院等も建物や地域に賄える程度の太陽光発電設備を設置することで、太陽光活用について地域へのメッセージを打ち出せるので、大きな施設から導入を進めてほしいと思います。

竹之内課長 最初のウェルビーイングについてですが、数年前にスマートシティの文脈でウェルビーイング指標というものを、鎌倉でも外部の方の協力を得て他市との比較など鎌倉の特徴が捉えられるように取り組んだ経過があります。デジタル庁のホームページからそれに関連す

るデータが見られるようになっているかと思います。そういったものも見ながら、ウェルビーイングの定義とは体が健康であることや気持ちが充実していること、社会的に良好な状態にあることだと思いますので、それをどうやってこの計画の中に反映していけるかというのは、今後先行事例も見ながら検討していけたらと思っているところです。

具体的にということは、確かにご指摘のとおりでありますので、今後検討していきます。

続いてごみの話ですが、確かに事業系のごみも入っているのですが、手元にあるデータによると、最新の令和5年度のデータで、家庭系のごみ資源物が40,274tに対して事業系のごみ資源物が13,620tということで、家庭系の方が多い状態になっております。

本計画に並行して、一般廃棄物処理基本計画も現在策定を進めていまして、環境基本計画の難しいところとして、他の計画をその下にぶら下げている傘のような役割の計画になっていますので、項目によっては環境基本計画の中でしか記載のないものもあれば、その下位計画がさらにある項目もございます。ごみ処理の計画はより詳しい検討をそちらの計画の方でしているような状態になります。ご検討いただくのに必要なデータ等は随時提供させていただきたいと思います。

浦山係長 最後に再生可能エネルギーの関係ですが、事業者につきましては、今年度から国の補助金を活用した補助金制度を新たに創設し、診療所などに的を絞ることで太陽光発電設備の設置を進めていきたいと考えております。そういったことも踏まえて新たな計画において、見直しも含めて検討していきたいと思っております。

竹之内課長 再生可能エネルギーの件で補足ですが、現行でも大規模な開発というのは開発計画に関して指導する機会があり、市の脱炭素の計画を踏まえて大規模なところには太陽光発電設備やEV充電器などをぜひ導入するようお願いをさせていただいています。ただ、新たな開発計画に対してのみその機会がやってきますので、既存建築物に対してどうしていくかというのは、先行自治体の事例も見ながら、昨年度策定した鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画（地域脱炭素化促進事業編）の中でも頭出しをしておりますので、今後仕組みを考えていきたいと思っています。

川口委員 現行の環境基本計画では、SDGsの目標やマークを設定してSDGsも意識されていると思うのですが、2030年为目标年度なのでそれ以降の動きがよくわからない状況です。今後、SDGs後の考え方が出た時点で意識していくなどありますが、鎌倉の場合はSDGs未来都市でもありますので、世界全体の動きへの意識みたいなものが入ってくるのかなと思いました。

それと以前、地域脱炭素化促進区域を設定しているので、一つは新たな計画の中でターゲットとして深沢エリアなどが重点的に入ってくるのか。また、実施できないものとしてロードプライシングがあって、これは抜本的に自動車等の交通量削減につながってCO2削減に寄与するので、それは引き続きどうしていくのでしょうか。

浦山係長 SDGsの考え方につきましては経済・社会・環境のバランスが取れた社会を目指した総合的な課題解決を目指した目標であるため、国の第6次環境基本計画では「循環共生型社会の構築」の中核をなす考え方として組み込まれています。新たな計画ではSDGsをより具体化・実

踐化していきたいと考えています。

川口委員 次期計画の時にまだ2030年の目標がまだ残っていると、どこかの時点でSDGsの考え方を取り除くような形になるのですか。

浦山係長 10年間の計画の中で中間見直しも検討しているところですので、2030年以降のことについても見直し時に反映していきたいと考えています。次に地域脱炭素化促進区域については昨年度策定しました鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画（地域脱炭素化促進事業編）の中で市の所有する公共施設について設置可能な施設の50%にまず太陽発電設備を設置していくという目標を設定しているところです。現在、市の所有する公共施設での簡易な設置可能性調査を進めておりまして、設置可能な施設をまず決定していき、その上で2030年度までに太陽光発電設備の設置について取り組んでいく予定です。

併せて深沢地域の開発も進捗しているような状況ですので、そちらのまちづくりの中でも、脱炭素の考え方を取り入れてまちづくりを進めていきたいと考えております。

ロードプライシングは検討しているところございますが、市だけではロードプライシングの実施が難しいところもあると思いますので、そこは国交省と連携しながら、検討を進めていくことになると思います。

竹之内課長 交通政策については新たな交通マスタープランの策定を進めており、そちらの中でも議論がされる部分があるかもしれません。連携しながら進めていこうと思っております。

亀山会長 細かいところは、今後そのセクションのところでもたご発言いただく機会があるかと思います。本日はこの大まかな全体の構成について、ご説明されたような方針に進めることについてはご了承いただけますか。

委員 （了承）

亀山会長 それでは、次の説明をお願いします。

石川職員 「資料2 市民意識調査について」及び「資料3 各種アンケート調査票」 説明

亀山会長 資料3のアンケートに対して、もしご意見が出たとしたら、まだ修正する余地はありますか。

浦山係長 修正することは可能です。

亀山会長 ここで皆さんに発言を求めていると時間が足りなくなるように思われるため、メール等で事務局に意見を送付させていただくこととします。最終的にそれを受けるかどうかの判断は事務局にお任せするとして、ぜひ忌憚なく、お気づきのことがあったらご意見を出していただければと思います。

植木委員 観光客の方へのアンケートは市のホームページ等で募集して、鎌倉に三か月以内に来た方だったら誰でも回答できるということではよろしいですか。このスケジュールを見た時に8月に実施したら海に来た方だらけになるとは思ってしまったのですが、そういうことではないということですか。

浦山係長 アンケート調査のモニターで登録されている方にお答えいただくような形で考えております。

川口委員 新しい機能を使って効率化と参加の可能性を高めるのは、いいことだと思います。以前、脱炭素かまくら市民会議に参加させていただいたことがありまして、全員が集まってそれを取りまとめることの大変さを感じましたので、それをある程度改善できるのかなと思ったのですが、環境系のすべてのワークショップは今後基本的にはLiqlid（リクリッド）をベースにしていく予定ですか。

竹之内課長 このLiqlidというシステムを導入してからもう何年か経つのですが、まずは企画部門で導入開始していて、徐々に全庁で色々な取組で使われてきています。導入の動機としては、共創による社会をつくるというのが市の大きなテーマで、公募では声の大きな方の意見は集まるのですが、本当にごく普通の方の意見というのがなかなか吸い上げられないところが課題でした。Liqlidでは、平日の夜は忙しい、休日は来られないなど様々な方がいる中で、24時間誰でも書き込みができるということで、そのようなサイレントマジョリティも含めて議論ができる場ということで、元は台湾のオードリー・タンさんという方が始められた仕組みをモデルにしています。日本でも加古川市で似たシステムを使用していまして、鎌倉市ではLiqlidを導入しています。

環境部では今までLiqlidを使った実績はありませんが、今回計画策定に向けてワークショップやアンケートに加えてLiqlidも組み合わせることで、より広くいろいろな人の意見を聞きたいと考えています

川口委員 脱炭素かまくら市民会議の時は居住区域や年齢など参加者と市の人口属性を合わせるのに苦労されていたと記憶しています。また、会議に来られる人と来られない人もいたので、その時間に限らず、忙しくて会議に出られない子育て時代の人などから意見が吸い上げられるという意味ではすごく良いのではないかと思います。

渡邊委員 このオンラインワークショップシステムをお使いになれることは、すごく良いと思います。

ワークショップの設定に詳しくはないのですが、将来像について意見を聞くということなので、オンラインはともかくとして、対面の時にどういう年齢層の方に来ていただくのかというところをよくお考えになられた方がいいのかなと思いました。もちろん高齢者を排除していいということではないのですが、将来像について考えるのに高齢者のボリュームが大きいと、それは本当に将来像なのかという話になってしまいます。そこを少しお考えいただくと良いと思

います。

また、市民意識調査アンケートを2,000名にやられるというのは非常に良いと思うのですが、地域ごとに問題が違うかもしれないと思いました。例えば新しいマンションがたくさんできていて、比較的若くて、お子さんがいる世代の方たちがお住まいの地域と、高齢化していく住宅街ではサポートのニーズ等も違うかもしれないので、一般的なアンケート調査ではなくて、自治会等にコンタクトされた方がよりそれぞれの問題が浮き彫りになるかもしれないと思いました。

竹之内課長 これまで私どもでも、例えば脱炭素かまくら市民会議は県の事業で昨年度実施したのですが、鎌倉市も協力させていただいて、その時は2050年カーボンニュートラルの時にまだ現役世代の方ということで参加者を60歳以下に区切らせていただいて、無作為抽出で公募させていただきました。非常に意識が高い方が多かったので、定員50名のところに100人以上の方が手を上げてくださったので、男女比や地域別の小さな鎌倉市を作るという形の選定をさせていただいて、参加が叶わなかった方は会議の見学や事務局としてサポートするといった形で参加していただくという開催の仕方をしております。

今回につきましては今の段では特段そういう仕掛けはしてないのですが、まずは無作為抽出で送ったアンケートからLiqlidにつなげるような仕掛けをしています。ワークショップの応募要件など詳細については、これから検討していくところです。

亀山会長 資料4について説明願います

浦山係長 資料4 計画策定に向けたスケジュールについて説明

小團扇委員 アンケートがとても件数が多いので、3回目の環境審議会の時には結果報告ということで、事務局の集計が大変なことだろうと思っております。

奈須委員 アンケートは、ボリューム的に少し多すぎるのだろうと思います。答えるのは相当大変だろうと思いますので、どこまで答えてもらえるかなと途中で離脱される方がそれなりの数が出るのではないかなと思いました。

亀山会長 特に事業者目線でこのぐらい減らしたほうがいいのではないかななどご意見がありますか。

奈須委員 例えば資料3-3では問9について、設問を20項目読むというのは結構厳しいなと感じます。もう少し観光客用アンケートのようになるべく文章も短くして簡単に答えられるようなことをされた方が、回答率も上がるのではないかなと思って見させていただきました。

亀山会長 もしかしたら事業者については簡単なアンケートとともに、このボリュームで聞きたいのであれば、個別にヒアリングで回るなど組み合わせるやり方もあるかもしれないですね。そのようなやり方含めてご検討やご意見いただければと思います。

前田委員 アンケートだと忙しくて回答が出来ないという方もいらっしゃるのかなと思います。その無作為抽出した1,000社でどれぐらいの回答率になるのか、少し心配になりました。

子ども向けのアンケートというのはすごくいいなと思っていて、時間があればちゃんと回答してくれるのではないのでしょうか。また、それを学校の授業で先生と一緒にというのがいいのではないかなと思います。例えば中学一年生ぐらいの子にそういうアンケートを取ったりすると、いろいろ考えて、三年後ならもう高校一年生で何かができる年齢になっている。そういう意味では中学生あたりからアンケートを取ったり、何らかの形で参加いただくのがいいかなと思います。

亀山会長 子どもは参加するとどういう結果になったかなと見たくなるので、環境基本計画の後に付録のような形で子どもアンケートの結果も付けておくと、子どもも手に取ってくれるかもしれません。すごく良いと思います。

川口委員 形式的なことなのですが、問の並びが二列になっている時、縦に並んでいたほうが読みやすいのではないかなと思いました。横に並べなくていい所は縦に並んでいるので、そちらの方が見やすいのではないかなと思います。ご検討いただければと思います。

小田委員 資料2の意識調査の取組がうまく進み活用されるといいなと思っています。この取り組みがどこに位置づけられるかと言うと、資料1の8ページに記載のある次期環境基本計画の構成第3章の(2)「鎌倉の環境の未来のビジョン」に位置づけられると思っているのですが、もう一つは第5章「環境保全の行動指針」で行動指針、重点プロジェクト等の検討にアンケートやワークショップの意見がうまく反映されるように進むことを期待しております。

亀山会長 市民の意識をかき集めた後にそれを環境基本計画のどこに入れていくかというところで、複数のインプット先があるということですね。

小田委員 行動指針まで繋がるのではないかなと思っています。

吉田委員 現時点での目標は予想していたよりは達成されているところが多く、少し安心しました。

アンケートについて、項目が多いのではないかなというご意見もあったのですが、見た目をもう少し答えたくなるようなビジュアルにしたら良いかなと思います。今はまだ調査票のようになっているので、調査されているという感じがあります。見た瞬間にそうではなくて、参加したくなるような、質問内容に合っている小さいイラストなどを入れるだけでもガラッと変わると思います。記入したくなるような雰囲気デザインを工夫したりなどすれば良いかなと思います。

亀山会長 ありがとうございます。アンケート内容の指摘については、事務局あてにメールで送っていただければと思います。

次の議題、その他に移ります。事務局から説明をお願いいたします。

浦山係長 本日の審議会の議事録の確認のご協力のお願いと今後のスケジュールについて説明

亀山会長 それではこれで審議会を終了とします。